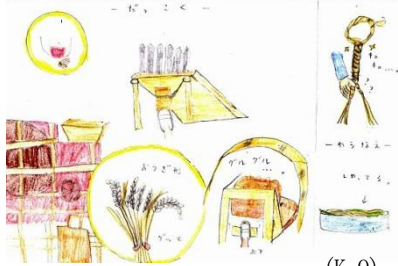


平成29年度 戌さん亥さん達の田作り

～第11期大椎っ子田んぼ、第8期あすみっ子田んぼ 脱穀編～

9月末に稲刈りし1カ月学校で干した稲を脱穀しました。昔ながらの機械を使い、さまざまな工程を体験しながら学ぶことができました。稲刈りをしたらすくにお米になると思っていた子どもも多く、玄米になるまで手間がかかることに驚いているようでした。また、少人数の大椎小ではわからないをする時間もとることができ、お米を取って残ったわらを利用することも学びました。

◎大椎っ子田んぼ (10月31日実施)



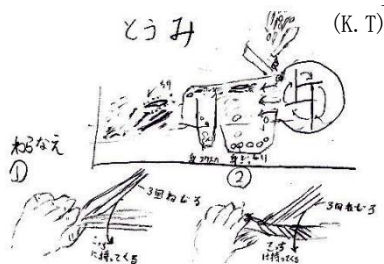
(K.O)

★稲はお米をとるだけでなく、お米を取ったあと、わらないをして物を作ることができてリサイクルみたいだと思った。脱穀作業では、稲から

お米を取る道具やお米の重さを利用してお米を選別する道具があり、昔はたくさんの方をしておどろいた。お米ができるまでに草取りをしたり、水の量や水温を調整したり大変さがわかった。昔はもっと大変だったと思うので、今と昔のお米の育て方の違いを調べようと思う。(A.T)

★タイミングを見て脱穀機のペダルをふんでまわすと、稲の束からたくさんのお米がとれてびっくりした。実の入っていないお米と入っているお米を分ける機械は、お米の重さの違いで出口が違っているなんてすごいと思った。ほかにももみがらを一瞬でとってしまう機械もありました。昔の人は手でやっていたと聞いてとても大変だったんだなと思った。お米を作る大変さがわかった。(Y.K)

★わらないは初めてだったのでむずかしかったけど、なれてくると長いつながりできた。脱穀するのにとても力があることがわかった。農家の仕事は「力仕事」で



(K.T)

ある事が脱穀作業をしてわかった。農家の人々は苦勞しながらおいしいお米を作ってくれていることがわかったので、これからは1粒1粒を味わって食べお米のおいしさについても調べたい。(H.A)

★わらないは難しく苦勞した。どうやったらうまくできるかわからなかった。脱穀では、たくさんの方の機械があった。一番大変だったのは、脱穀機でもとれなかった米を稲束からとる作業だ。お米は1粒1粒が命なのでお米をわらに残さないようにすることが大変だった。次々とやることあって休むヒマがなくてクタクタに疲れたけど、おもしろかった。玄米になったので、早くこの米を食べたいという気持ちでいっぱい。(K.I)

★わらないは、わらを2本づつ両手で持って片方をねじったら反対がわにぐるっとまいてもう片方をねじってぐるっとまいてをくり返して編んでいった。最初は難しかったけど、なれてくると楽しかった。

次にするどい歯のついた千歯こきで脱穀をした。稲を歯にひっかけて自分の方にひっぱってお米をとる機械だ。最初はうまくひっぱれなかったけどなれてくると楽しかった。それでもとれなかったお米を手でとった。次にお米にまざったわらくずなどを選別する機械を使った。レバーをまわして風を起こして選別するもので、私たちもレバーを回したが、意外と重かった。風があればザルを使ってできるそうだ。最後にもみすり機にかけた玄米をさわったが、さらさらしていた。(N.S)

★思ったよりも1本にたくさんのお米がついていたのでびっくりした。おばあちゃんの家では稲刈りと同時にお米ができていたので、機械をつかわないとこんなに大変なんだとわかった。だからこの大変さをいろんな人に教えたいと思った。わらないは、はじめやり方がわからなかったのでできるか不安だったけど、やってみると夢中になるほど楽しくて、何よりかんたんだったのでびっくりした。(T.Y)



(K.T)

★両手に2本ずつわらを持ち、片方をねじってはもう片方の上に通しねじっていないほうをねじってはもう片方の上に通しをくり返して、長くしていった。長いものはなわとびにもなるし、短いものは輪をつくってリースにもなって自分の好きな形にアレンジできて楽しかった。つぎに千歯こきで脱穀した。千歯こきでもとれなかったもみを手でとった。そのあと、実のつまっているものとそうでないもの、わらくずなどを選別する昔ながらの農機具を体験させてもらった。昔ながらの農機具にはいろいろな仕組みがあって昔の知恵や工夫がたくさんつまっていた。そのような農機具がないときでも風の力を利用したりしていたと聞いて、すごいと思った。(H.H)

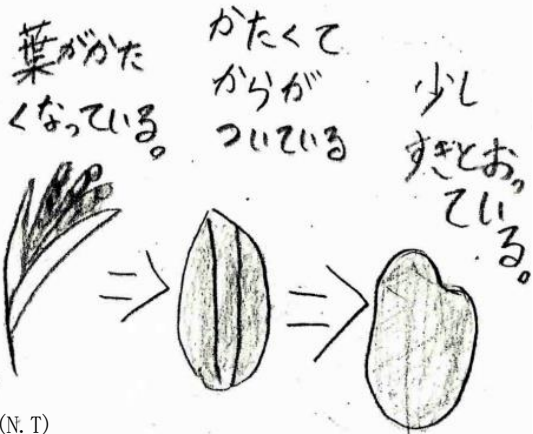
★唐箕は実のつまったもみとそうでないもみ、わらくずなどを分ける機械だ。ハンドルをまわして風を起こすと、重たいもみが手前に落ちて、わらなどは軽いから風といっしょにでくる仕組みだ。この機械を使わなくても風をつかっけて風選もできるそうだ。この機械を見て、昔の人の知恵はすごいと思った。(H.Y)



(Y.Y)

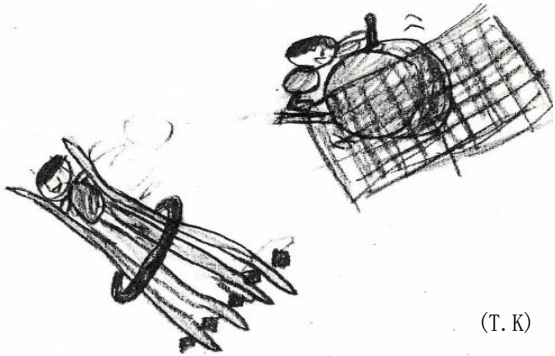
◎あすみっ子田んぼ (10月30日実施)

★今回初めて脱穀をしたが、想像していた以上に長く大変な作業だった。昔の人が使っていた道具は、風を使った工夫があってすごいと思った。脱穀をするとき、刃にひっかかってばかりでむずかしい作業だったけど、楽しかった。とうみには出口が3つあって、2つはもみがらが出てきたが、もう1つはついてきたざっ草などを風選している工夫もすごかった。それにわらもちがったものに作ることができてすごいと思った。(A.K)



(N.T)

★脱穀をやって、稲刈りの後どうなるのかを知ることができた。まず稲を乾燥させた後、脱穀した。脱穀する時は、2種類の道具を使った。1つはとがっている刃にいねをあてて自分でひっぱる物で、もう1つは足でふみながら脱穀する物。米のからをむいてみると茶色ぼくて少しすきとおっている物が出てきた。1つのたばのいねからたくさんのお米がとれて全部自分たちとほごしゃの方、先生方などの協力で「こんなに育てたんだ」とすごくびっくりしたけど、すごい苦労したのが実感できた。(N.T)



(T.K)

★脱穀の作業は昔ながらの機械(手動)を使った。でももみをとったあとの米を玄米にする作業だけは電気を使った機械を使った。脱穀では「足踏み脱穀機」や「千歯こき」を使う。足踏み脱穀機を使った時は、ペダル(踏むところ)がとても重く、回っているところに手をはさまったらこわいなと思った。次は「唐箕」を使い、わらなどと実を風を使って分けました。唐箕の風を起すハンドルは意外と重く、大変だった。脱穀の作業を体験して、今は機械をつかっているけど、昔の農家の方々は、あすみ田んぼよりも広い田んぼを、5年生よりも少ない人数で米を育て、脱穀の作業をしていたかと思うと、もっと農家の方々に感謝しないといけないと思った。(M.Y)

★今日初めて脱穀を体験した。田んぼから持ってきた稲はかたく、でもみんなの稲には今までの思い出がつまっている。もみとりは機械にあててやったが、

稲に残ったお米を手でとっていくのがとても地味な作業だった。農家の方々はいつもやっていると思うと本当にすごい。「とうみ」と言うものは、風を利用して籾と他のものと分ける機械だ。お米を作ることは苦労するんだと心から思った。いままでやった田んぼの経験を何かに生かしていけたらいいなと思う。本当にすばらしい経験ができた。(H.I)

★脱穀で機械を使って米を落とすのが気持ち良かった。初めてやって、少し脱穀は大変そうだなと思った。機械を使うのもむずかしかった。米が地面にたくさん落ちてしまうからだ。これを何回も何年もやっていると思うと、田んぼの人たちはすごいなと思った。機械を使ってもわらなどは入っていた。米は、必ずというほど必要だけど、こんなに大変なことをして、米は生まれてくると思うと、本当にすごいと思った。(T.K)

★私が一番心に残ったのは、脱穀だ。手でやるけれど、すぐとれて、なんだか気持ち良かった。他にも色々な機械があった。昔の人々の色々な工夫のおかげで、すごく簡単に作業が出来た。早く自分たちで作ったお米を食べたい。自分たちで作ったので、絶対の絶対にごくおいしいはずだ。ボランティアやあすみ田んぼの人や先生が手伝ったり、教えて下さったからお米が出来たんだなと思った。(K.Y)

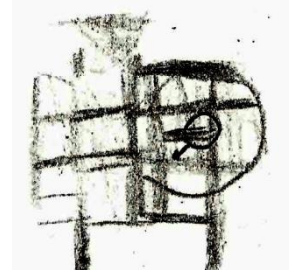
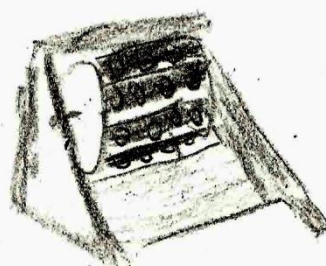


(K.Y)

★一番たのしかったのは、足ふみ脱こく機だ。でもなぜペダルをずっとはなさなくてこいでると止まってしまうのが、ちょっと不思議であとで調べられれば調べたい。今日はやらなかったので、千歯こきをまたいつかやれる機会があればやってみたいと思う。あと米を草を分ける機械も昔の人たちの知恵がつまっていると思った。今日の体験で昔の人たちはすごいかしいということがわかってよかった。(K.U)

★最初に、もみがらをとる機械を使った。機械だとすぐもみがらとれたけれど、手でやると少しずつしかとれなかった。次に唐箕を使った。ハンドルをまわすと風がでて米と稲ほをわけることができていた。さいごに脱穀機を使った。足ふみ脱こく機と千歯こきがあった。足ふみ脱こく機はかんたんを使うことができたけれど、千歯こきは力があるようだった。大変だったけれど、いろいろな道具が使って楽しかった。(R.K)

★最初に、もみがらをとる機械を使った。機械だとすぐもみがらとれたけれど、手でやると少しずつしかとれなかった。次に唐箕を使った。ハンドルをまわすと風がでて米と稲ほをわけることができていた。さいごに脱穀機を使った。足ふみ脱こく機と千歯こきがあった。足ふみ脱こく機はかんたんを使うことができたけれど、千歯こきは力があるようだった。大変だったけれど、いろいろな道具が使って楽しかった。(R.K)



(R.K)



聖山たんけんレポート

第 214 回 下大和田谷津田の観察会とゴミ拾い

2017年11月5日(日) 晴れ

夏期は草深く立ち入れない下流部を巡りました。谷津北側の路は東電の鉄塔管理のためでしょうか草刈りが行われた形跡があり二つ下の鉄塔までは行けました。その先は丈の高い草に覆われ草刈りをしないと鹿島川合流部までは行けない状況になっていました。また、南側の土水路沿いも草刈りをしないと巡ることは出来なくなっていました。

アオジ、カシラダカなどは例年通りやってきているようでした。ノスリも飛び出し円を描き上昇して行きました。確認は出来ませんでした。アカハラ、ジョウビタキ、ベニマシコかと思われるような声も耳するなど12種に出会いました。

生きものは少なくなりましたがツマグロヒョウモン、クロコノマチョウ、キタキチョウ、ヤマトシジミ、コバネイナゴ、ツチイナゴ、ツマグロオオヨコバイなどが見られました。トンボはふたつの台風の影響を受けたのかアカネの仲間ではムユタテアカネのオス3頭を捕獲しただけでした。他、オオアイトトンボ数頭、ホソミオツネトンボ1頭が見られた程度でした。花ではイヌタデ、ミソソバが路々を彩っていました。ダイコンソウやナズナの花など20種ほど見られました。

(参加 大人5名、報告・写真 網代春男)



第 213 回 下大和田YPP「古代米脱穀」

2017年11月4日(土) 晴れ

前日朝方まで雨が残り、乾燥状態が気懸かりでしたが穂先の方は脱穀に耐える程度には乾き、予定通り脱穀を終えることが出来ました。脱穀が終わった稲束は束ねたところが湿っているので乾かしてからおだ小屋に仕舞うことにしました。今年は天候に翻弄されましたが、脱穀が終わった粃の袋の数は多く作業甲斐がありました。稲束運びなど子ども達も活躍しました。2月に植菌したヒラタケが発生し子ども達は収穫を楽しんでいました。

(参加 大人9名、小学生6名、報告・写真 網代春男)



第 214 回 下大和田YPP「もみすり」

2017年11月11日(土) 晴、一時雨

米作りの最終の行程「もみすり」を千葉市農政センターで行いました。今年は収量が多そうなので一時間早く8時45分に集合、9時作業開始にしました。

トータルの収量はここ数年で最高でしたが、2台のもみすり機は順調に稼働して16時にはすべて終了することが出来ました。

毎年経験していることですがもみすり機からざあーと音を立てて玄米が流れ出てくる時は一年の米作りを想い感動する瞬間です。

もみすりは子ども達が熱中する作業です。今回も大活躍してくれました。

(参加 大人12名、小学生5名、報告・写真 網代春男)



第 150 回 小山町 YPP「もみすり」

2017年12月3日(日) 晴れ



朝から好天気、地元の農家の庭先をお借りしてもみすりを行いました。もみすりは、もみを機械に通して、もみ殻を外し、玄米にする工程です。お米の種類は、コシヒカリ、古代米の黒米、赤米、緑米です。特に赤米は、もみに長いノギ(粃から伸びるヒゲのような部)があるため、機械を通すのにも一苦労です。この日は、6人の小学生が参加、もみすりや、藁ないのお手伝いをしてくださいました。玄米になったお米は少しずつ小分けにして、参加してくれた子どもたち、お世話になった地元の方、ボランティアの皆さんへのお礼として配りました。

(参加 大人6名、小学生6名、報告・写真 稲富理枝)

<谷津田・季節のたより>

小山町

- 11月13日 あざみ谷のあざみ、盛りを過ぎて、ひっそりと咲く(たんぼぼ)。
- 11月22日 マユタテアカネ、アキアカネ、群れて飛来(赤シャツおやし)。
- 11月29日 ナミテントウムシ、りんどう広場に大量発生(たんぼぼ)。

下大和田

- 11月20日 アライグマの糞にタヌキがかかりました。すぐ解放しました(網代)。
- 11月26日 小川沿いの畦にイノシシの足跡がありました(網代)。
- 11月30日 コバネイナゴはまだ頑張っって畦を跳ねています(網代)。



イベントのお知らせ

谷津田ってどんなところ? と興味をお持ちの方、お米づくりを経験してみたいなと思っている方、谷津田プレーランドプロジェクト(YPP)のイベントには大人から子どもまで、はじめての方でも好きな時にご参加いただけます。家族で、お友達どうして、もちろん、お一人でも気軽にいらして下さい。

連絡先(いずれも): ちば環境情報センター (TEL&FAX: 043-223-7807 E-mail: hello@ceic.info/)

ご注意: ・車でこられる方は必ず指定の駐車場に止め、農道などにおかないでください。

- ・近くにトイレがありませんので、集合前に一度済ませておくご協力をお願いします。
- ・小学生以下のお子さんは保護者同伴で参加ください。
- ・けがや事故がないよう十分な注意は払いますが、基本的に自己責任でお願いします。

▼ちば里山くらぶ活動日 谷津田の森と水辺の手入れ

- 日時:** 2017年12月10日(日)、12月15日(金) いずれも9時45分~14時
- 場所:** 千葉市緑区下大和田谷津田(ちば・谷津田フォーラムのホームページで地図をご覧ください。)
- 集合:** 現地9時45分 初めて参加する方は駐車場や会場をご案内しますので事前に網代(あじろ)090-2301-0413までご連絡ください。
- 持ち物:** 飲み物、弁当、長袖長ズボンの服装、軍手、長靴、帽子、敷物
- 主催:** ちば環境情報センター

▼第215回 下大和田 YPP「収穫祭」・第216回 どんど焼きと昔あそび

「収穫祭」収穫に感謝し、緑米で餅つきをし、お餅を食べたり、ゲームをしたり、いろいろ楽しめます。「どんど焼きと昔あそび」年明け最初は恒例のどんど焼きです。かかしのお焚き炊き上げをし、火を囲みながらベイゴマなど昔ながらの遊びを楽しみます

- 日時:** 収穫祭 2017年12月16日(土)9時45分~14時 *小雨決行
どんど焼き 2018年1月13日(土)9時45分~14時
- 場所:** 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
- 集合:** 現地。初めて参加の方はご連絡ください(同上)
- 交通:** JR千葉駅10番成東あるいは中野操車場行きのちばフラワーバスで中野操車場バス停下車、徒歩5分で現地。<千葉駅発8:25、8:40など、所要時間45分>料金は520円。
- 持ち物:** 弁当、お皿・お碗・はし、飲み物、帽子、軍手、敷物など。どんど焼きは、どんど焼きで燃やしたいものや昔あそびの道具など
- 参加費:** 収穫祭 小学生以上一律500円(食材費を含む特別料金です。)小学生未満無料
どんど焼き ちば環境情報センター会員および家族100円、一般300円、小学生未満無料
- 主催:** ちば環境情報センター **共催:** ちば・谷津田フォーラム

▼第216回 下大和田谷津田観察会とごみ拾い

冬鳥を観察しながら、谷津下流の鹿島川合流部まで巡ります。

- 日時:** 2018年1月7日(日)9時45分~12時 ☆小雨決行
- 場所:** 千葉市緑区下大和田谷津田(同上)
- 集合:** 現地9時45分 初めて参加の方はご連絡してください。(同上)
- 持ち物:** 筆記用具、飲み物、長靴、帽子、敷物、ゴミ袋、午後まで活動する方は弁当など。
- 参加費:** 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催:** ちば・谷津田フォーラム、ちば環境情報センター



赤シャツおやし

▼第151回 小山町 YPP「あぜの手入れ」

来年度の米づくりに備えて、田んぼのあぜの手入れをします。

- 日時:** 2018年1月20日(土) 10:00~12:30、小雨決行
- 場所:** 千葉市緑区小山町 リンドウ広場(ご連絡いただければ地図をお送りします)
- 持ち物:** 飲み物、長靴(長めのもの)、帽子、軍手、敷物。
- 参加費:** 100円(小学生以上、資料代など)
- 主催:** ちば環境情報センター

編集後記 脱穀・もみすりの作業はお米を仕上げる最終工程と言えるでしょう。こどもたちは、そこでいくつもの作業を目の当たりにして、春から今に至る田んぼの思い出とともに、お米にはとても多くの手間と時間が注がれていると感じ取るようです。さらに、炊き上がったご飯を口にするには、なお手間を経て「これからはご飯を大切に食べよう」の声は自然に漏れ聞こえてまいります。街は鳴く虫の声もだいぶ大人しくなって、谷津田もすこしずつ静けさが深まって参りました。(赤シャツおやし)